Last Supper
ラストサパー

知っておきたいキリスト教のことば （77）

最後の晩餐 さいごのばんさん

「最後の晩餐」と聞くと、レオナルド・ダ・ヴィンチが書いた右の絵画を思い浮かべる方も多いでしょう。これがミラノの修道院にあることは知らなくても、10 年ほど前に公開された映画「ダヴィンチ・コード」なら知っているという人もおられるかもしれません。

「最後の晩餐」とは、イエス様が十字架につけられる前の夜に、12 人の弟子たちと共にした食事です。マタイ・マルコ・ルカ福音書は、この食事が過越祭というユダヤ教の祭りの日におこなわれたと報告します。

この食事の中でイエス様がなさったことは、初期の教会でも大切にされてきました。パウロはコリントの信徒への手紙の中で、このように書いています。

主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

（コリントの信徒への手紙一 11 章:23～25 節）

パンと杯は、人類の罪の贖いのためにささげられたイエス様の体と血です。過越の小羊の犠牲を思い起こさせるこの出来事は、今も教会で「聖餐式」として大切にされています。

わたしたちは聖餐式でパンを食べ、杯から飲むたびに、イエス様がわたしたちのために十字架につけられたことを思い起こすように促されています。またわたしたちは、神の国の先取りとして神の国の祝宴の席にも招かれているのです。その恵みに感謝しましょう。

次回は「祭司」です。お楽しみに。

「最後の晩餐」
レオナルド・ダ・ヴィンチ
（1452～1519 年）

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」

（マルコによる福音書 14 章 22 節）